

プロジェクトリーダー：瀬戸市役所学校教育課

事業実績調書

(1) プロジェクト名	瀬戸市内小中学校教育現場支援プロジェクト
(2) プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）	
<p>○発達支援研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教員が児童生徒を観察し、小中学校教員に対してアドバイスすることで、小中学校としては、有効な手立てを知るとともに、日々の教育活動に生かすことができた。 <p>○理科学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科学習に対する児童の興味関心を広げるとともに、教員の資質を向上することができた。 <p>○発達障害支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教員が直接小中学校で巡回指導を行うことで、小中学校教員が児童生徒への適切な支援について理解し、指導に生かすことができた。 <p>○学部生による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来教員を目指す学部生の支援は、特別な支援を必要とする児童生徒への支援を充実し、学部生の現場での体験を増やすことができた。 	
(3) プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	
<p>○発達支援研修会</p> <p>① 7/29（金）瀬戸蔵多目的ホール 講師：名古屋産業大学准教授 松瀬 留美子 先生 演題：通常学級に在籍する児童生徒の学校生活不応と進路選択の課題 参加者：50名</p> <p>② 8/3（水）瀬戸蔵多目的ホール 講師：金城学院大学教授 川瀬 正裕 先生 演題：多様化する保護者の理解と対応 参加者：58名</p> <p>③ 8/25（木）文化センター22会議室 講師：名古屋学院大学学生相談室 廣藤 稚子 先生 演題：学校現場で生かせる発達支援 参加者：60名</p> <p>○理科学習</p> <p>① 愛知工業大学客員教授 佐伯 平二 先生による理科実験 10/7（金）掛川小、12/6（火）・7（水）祖母懐小 12/13（火）・16（金）・20（火）下品野小 12/14（水）道泉小、12/15（木）古瀬戸小</p> <p>② 名古屋産業大学准教授 岡村 聖 先生による理科実験 11/18（金）【2回に分けて実施】長根小、1/31（火）萩山小</p> <p>③ 愛知工業大学客員教授 佐伯 平二 先生による小中学校教員対象の研修会 8/24（水）会場：愛知工業大学 内容：見て・作って・楽しい！！理科実験講座 参加者：26名</p> <p>○発達障害支援</p> <p>① 金城学院大学教授 川瀬 正裕 先生 3回</p> <p>② 金城学院大学教授 今村 友木子 先生 1回</p> <p>③ 金城学院大学准教授 加藤 大樹 先生 2回</p> <p>④ 金城学院大学講師 二村 彩 先生 2回</p> <p>⑤ 名古屋学院大学学生相談室相談員 廣藤 稚子 先生 2回</p> <p>⑥ 名古屋産業大学准教授 松瀬 留美子 先生 4回</p> <p>⑦ 南山大学准教授 早川 徳香 先生 2回</p>	

○学部生による支援

・ 3名の学部生がそれぞれ別の小学校で支援

39回（継続中）

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

○大学教員からの助言・指導等は、小中学校教員とは違った視点で行われることが多く、学校現場にとって、非常に有効である。また、大学教員からは、実際に児童生徒を触れ合うことで、自身の研究に生かすことができると聞いている。さらには、大学教員の研究成果が、小中学校現場で生かされることになり、よいサイクルを生み出していると言える。今後も、小中学校と大学教員が連携し、繋がりを広げていく場として、大学コンソーシアム事業を有効活用したい。

○プロジェクト型になったことで、大学教員との調整の他、謝礼や交通費の支給についてのやりとりが必要になり、お互いに負担増になったと感じる。学校教育課としては、大学教員との調整の他、学校側との調整も必要なので、できるだけスムーズに実施できる方法を望む。